



「ひらほく新聞」で検索！  
★ホームページ・ひらほくランド★  
http://www.hirahoku.com/  
☆バックナンバー含め「ひらほく新聞」を  
閲覧・ダウンロード可能です！

発行所 読売センター平塚北部（ひらほく）山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

# お金の真理は 心の豊かさの真理

何度も書籍をご紹介してきました銀座まるかんの創設者、納税額日本一として有名な実業家、斎藤一人さん。私もお陰様で十年來の「ひとりさん信者」です。今月号では、最新刊『お金の真理』大富豪が教える「お金に好かれる5つの法則」(サンマーク出版)をご紹介します。

「私の知る限り、お金に関する話で、これ以上の話はないと思っています」という一人さんにご縁をいただき、編集者人生の約半分、丸9年を一緒に過ごさせていたきてきたという鈴木七沖編集長曰く、「難しいことを優しく、シンプルに」、誰でも実践しやすいように分かりやすく書き下ろしていただいたそうです。

『いかにしてお金に好かれて、それを活かすか』  
どうすれば「お金」が手に入るか、という手段を問う本がたくさんあるなかで、この新著は、「いかにしてお金に好かれるか?」、つまり「お金」を何とかしよう、ではなくて「お金に対して自分がどうあるべきか」の『豊かさの真理』を伝えてくれています。

まずは収入のうち1割を残すようにする。

服屋や飲み屋にあげちゃったら残らない。

「10分の1だけでも自分にあげる」。

とにかくこれが「お金に困らない」ための、そして「お金持ちになる」ための第一歩になるのです。

財布にお金を残すと「忍耐力」が養える

お金には「あるところ集まる」という習性があります。財布の中に十分なお金が入っていれば、そこからは豊かな波動が出てきて、同じ豊かな波動を引き寄せるのです。だからそこで「持っていて使わない」という忍耐力を養うのです。

「入りきらなくなったときどうするんですか?」という、次に必要なのがその貯めたお金を減らさずに、増やしていくための「知恵」なんです。

お金を稼ぐことも大事だけど、**お金を持てるだけの「器量」を養う**ことも大切なんだよ。まずはあっても使わない「忍耐力」をつけ、その次に貯まったお金を減らさずに増やす「知恵」をつけなければいけません。

## ◎第2の法則

「なぜかお金が入ってこない人」は心のどこかでお金を嫌っている

お金は「受け取る準備」をしていないと入ってこない

たとえば、親に家や車を買ってもらった人や遺産を相続してお金持ちになった人のことを羨んだり、妬んだりしている。「楽しんでモノやお金をもらうことは悪いことだ」と天に向かって言っているのと同じです。その結果、自分には「楽しんでお金が入ってくる」という幸運は起きませんし、それがお金に対する偏見にもつながって、お金を受け取れなくさせてしまっています。ではどうすれば……

「良かったね」

知り合いで昇進した人や、臨時収入があった人に対して「良かったね」って言うってると、自分にも同じような幸運が訪れます。他人の幸運に対して心から「良かったね」と言い、さらに他人の幸せを願うようになると、「私も同じ幸運を受け取る準備ができてますよ」と天に向かって言っているのと同じことになるのです。

だから、お金を受け取るためには「お金に対する偏見」をなくし、他人の幸せを願う。豊かになるためにはまず、自分の心を豊かにすることが大切なんだよ。

## ◎第4の法則

神様を信じる人は成功する より

知恵とは「出し癖」のこと

問題は悩むために出てくるんじゃない、解決するために出てくるんだよ。だから、起きたことを一つずつ解決していけばいい。まず、その人にあった問題が出てきます。どんな問題もあなたにだけに出るんじゃないんです。そして、自分で考え出すのも知恵。人に話を聞くのも知恵。本を読むのも知恵。

要はどんな知恵を使ってもいいから乗り越えればいいの。

それで乗り越えればまた魂が成長して、上に上がれば上がるほど幸せになるようにできています。問題解決ってゲームみたいなもので、すごく楽しいんだよ。私たちは神様が用意してくれた「人生という名のゲーム」の中で生きていくんだよ。それと、知恵は「出し癖」なんです。

知恵がない人なんていません。知恵を出してると、またどんどん新しい知恵が入ってきます。だから決して「出し惜しみ」をしてはダメなんです。

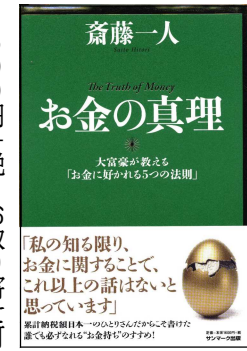
## ◎第5の法則

「自分は運がいい」と思い込めば運は良くなる より

どういう人が「運がいい」のかというと、「いつも笑顔でいる人」とか「物事を肯定的に考える人」で、考え方や行動を変えるだけで運気を上げることが可能なんです。お金持ちになるのも「ただ、運が良かったから」という偶然の結果ではなく、「自分は運がいい」という思いがあつて「だからお金持ちになれる」と思った人がなれています。

まず「自分は運がいいんだ」と思うこと。そして「お金持ちになるんだ」と心に決めて収入の1割でも貯め出すと運気も上がり、さらに「加速の法則」も働いて、それ以上に貯まり出すからね。(終わり)

1600円+税 お取り寄せ可





# 手を合わせて生きる

九十二歳という齢を迎えた今、瞼を閉じて思い浮かべる母の姿は、温かくもどこか切なげで、私の心をキュッと締め付けます。

後妻として寺に嫁いだ母は、家族や先妻の子供さんたちとなかなか馴染めず、心で涙を流していたことと

思います。それでも文句を一切言わず、ただ黙って家事をこなし、仏様に手を合わせていたものです。

昔、母が一度だけ聞かせてくれた話があります。生まれつき足が不自由だった母は、両親に「自分の歩き方は他の人と違う」と訴えましたが、取り入ってもらえませんでした。納得がい

かず六歳の時に一人で訪れた病院で、こう言われたそうです。「もう手術しても治らん」と。母はそれを聞き、涙を浮かべながら話をしてくれました。この出来事が母を忍耐の世界へと入れたのでしよう。「この足は仏様が私に与えてくださったものや」と、よう言うておりました。

の姿がありました。ところが私は何を思ったか、休憩時間になっても母の元へ行かず、教室へ逃げ込んだのです。教室の窓から、木の下で一人たたずむ母の姿を見つけた時、なんてひどいことをしたのかと恐ろしくなりました。初めてだから知り合いもないし、娘も来ない。母はどれほどつらく悲しい思いをしたでしょうか。

私は結局、母の元へ行くことができませんでした。八十年以上が経った今でも後悔しています。つらい出来事が起こると、パッと木の下の母が思い起こされ、あの時の母の心に比べたら、こんなことはなんとでもないんや」と、自分に言い聞かせ手を合わせるのです。どんな時でも「今」を受け入れ、手を合わせて生きていくということを、母は身を持って教えてくれたのでしようか――。

命ある限り、悔やんでも悔やみきれないものがあるという事は幸せですね。親を偲ぶという事は、今の自分を自制し、正しい世界へとひっぱってくれるからです。「それ以上罪をつくるんか」。そんな母の声

が、聞こえてくるような気がします。

（浄信寺副住職 西端春枝）  
※株タニサケ・松岡会長から送っていただいたお話です

送っていただいたお話です

## 『靴脱げば』

### 楽しい今日の旅づかれ

#### ◎「みやざき中央新聞」5月9日号、取材ノートのお話

に、自らの亡き父のことを思い出し、とても感銘を受けました。ご紹介し

私にその才能は遺伝しなかったようですが、私の父は川柳が得意でした。

父は若い頃、川柳を新聞に投稿し、何度も掲載されて

ていました。色褪せた切り抜きがノートに貼られているのを子どもの頃に見たことがあります。当時まだ20代だった父を写真付きで紹介する記事もありました。

私が小学生の頃でした。学校から帰り、遊びに行こうとする私を夜勤で寝ていた父が呼び止めました。「遊びに行くならこれをポ

ストに出しておいてくれ」それは市の交通安全週間の標語募集に投稿する葉書

でした。当時の私には作品の良し悪しは分かりませんでした。綺麗な五七五になっ

ていたなと思った気がします。

それから数日後、母と買い物に出かけたとき、街なかで風船を配っている若い女の人がいました。その人からもらった風船には「交通安全標語最優秀作品」という白い文字と、あの日私がしわくちゃんにした父の五七五が書かれていたのです。

驚く私に、母があっけらかんと「そういえば市から何か記念品が送られてきていたよ」と言ったのをよく覚えて

います。

桜が散った後の新緑の季節。いつも通り「おやすみ」と床に入った父は、朝にはもう冷たくなっていたそうです。心筋梗塞でした。

亡くなった後、筆筒から短冊形の色紙が数十枚出てきました。そこには父が作った川柳が書かれて

いました。

私はそれを父の眠る棺桶の中に花と一緒に手向け、気に入った数枚を「形見」としてもらいました。その中の一つが今もわが家の玄関に飾られています。玄関という場所によく合う、こんな川柳です。

## 『靴脱げば』

### 楽しい今日の旅づかれ

#### 遊びに夢中になった私は、夕方帰る頃になって葉書のことを思い出しました。ポケットの中でしわくちゃになってしまったその葉書を、私は慌ててポストに投函しました。

「大変なことも多かったけど、天国に行くときに人

生という靴を脱いでみると、俺の人生も悪くなかったよ」。そう言って笑う父の姿が浮かんできます。これはきつと父の辞世の句だと思

います。

今年もまた新たな緑が芽生える季節になりました。もうすぐ55回目の命日がや

## 編集後記

で左側窓に注目、子どもたち

に手を振って答えてあげることができました。

『皆様のご協力、まことにありがとうございます。』

車内に笑顔があふれ、とても温かい雰囲気になりました。唯一休めた連休最終日、素晴らしい思い出をいただきました。

小田急さん、最幸です！

ありがとうございます！

5月24日夜、都内のお仲間さんから招待をいただき、白駒妃登美さんの講演会に参加してきました。

一昨年来の4度目の歴史、後半の熱のこもった力強い話し方に進化を実感しました。終了後ご挨拶すると、壇上から気づいて

くれていたらしく、とても嬉しく有難い再会でした。

感動あふれる講演から『日本人の幸せ感』についての部分を紹介します。

私たちの人生というのは、現実を受け入れることからしか始まらない。現実を受け入れて、ご縁を大切に

にして、ご縁をいただいた人たちに笑顔になってほしいと心から願って、そのためにできることを精いっぱいやる！

そこには自分が自分という自我はない。日本人の幸せ感というのは、西洋とは対照的。手放すこと、受

け入れること。人間である以上、我をゼロにはできない。でも、その我を薄くしていくことこそが日本人の幸せに直結する日本人の生き方の極意ではないか。

自分が自分かといって自我を捨てようとしていることは我が強いということ。だから自分のことはちよつと置いておいて、大好きな人や大切な人のために、自分にできることを精いっぱいやろう！

自ら大病を受け入れ、目の前の今を全力で生きた経験が語る深い言葉でした。

親愛なる読者の皆様のお陰をもちまして、当「ひらほく新聞」も今月で丸6年を迎えられました。心より感謝いたします。これからもほんの少しでも皆様



Azuさんに教わった「みこと仏」